



個性が輝く おんな & おとこ まちが輝く

とうぎやざー

みんな 仲良く 一緒に

2019.3.第20号



輝くひと

高田久美子さん（八女市）にインタビューしました！…2

- ☆「男女共同参画推進フォーラム」に参加して ……………… 3
- ☆持続可能な開発目標（SDGs）を知っていますか？ ……………… 4
- ☆島原自然塾及び雲仙岳災害記念館視察研修 ……………… 5
- ☆肥前さが幕末維新博覧会「オランダハウス」訪問・編集後記 ……………… 6



情報誌「とうぎやざー」は、男女ともに個性と能力が十分に發揮できる八女市を願って名付けました。

発行：八女市 男女共同参画推進課 ☎0943-23-1314
こらぼれーと*(八女市男女共同参画情報誌編集委員会)

こらぼれーと（共同）
※ 情報誌を編集するメンバーのグループ名です。よろしくお願いします。

輝くひと



たかだ くみこ
高田 久美子さん

この笑顔にあなたもどこかで会ったことはありませんか？

八女市福島生まれの福島育ち、そして結婚後も福島で暮らす高田さんはこぼれそうな笑顔で「八女は本当に住みやすく、大好きなところです」と話されました。飛形山や矢部川の自然に恵まれ、古い歴史と高い水準の伝統工芸を持ち、極めつけはここの美味しい水で淹れた『八女茶』。まさに「八女を好きになる要素が一杯です」と絶賛されました。数々の魅力を多くの方に知って頂くために、祭りなどのイベント時には観光案内を自主的にされています。

活動は幅広く、二つのコーラスグループに参加され、韓流ドラマをきっかけに韓国語もマスターされています。そして今一番はまっているのが『オルレ』。八女コースの案内人として来訪者へ八女の魅力を伝えることは勿論、自身も各地のコースを訪ね、新しい出会いや経験を広げているとのこと。《取材日 2018年10月23日》

—パワフルに活動されていますがそのきっかけについて教えてください。

結婚を機に勤めを辞め、家事・育児・自営業の手伝いをしていました。マイペースでやってきましたので負担に感じることはありませんでしたが、子育てが一段落した頃、外にも目を向けるように夫から勧められました。それからコーラスや韓国語講座での活動が始まりました。今一番はまっているオルレは、コーラス仲間に誘われたことがきっかけです。当時は歩くことに消極的で、案内人の会にも没々入りましたが、参加者の楽しそうな姿に感激し、今ではその面白さを周囲の人伝えています。景色を楽しみ、新しい出会いで仲間が増え、お喋りしながら十キロ余の距離はあつという間です。市県外の参加者へ八女の魅力を伝え、自らも新しい出会いを広げています。

—ご自身の活動を楽しむために夫婦の間では行動予定は互いに伝えています。パートナーの趣味や活動を「制限しない」「認める」ことが自然な形でルールはありますか？

夫婦の間では行動予定は互いに伝えています。パートナーの趣味や活動を「制限しない」「認める」ことが自然な形でルールになっています。強いて家庭内での役割分担も決めずに、マイペースで進めることが私には合っています。

—ハ女の男女共同参画事業についてどう思われますか？

地名に「女」の文字があるほどだから、昔から女性が活躍してきたのではないか。私の周りでは、祭りなどのイベントで中心を担う女性が多いですね。男女が互いに認め合い、理解することが大事だと思います。

—これからやりたいこと、新たに挑戦したいことは？

コーラスやオルレを通じて、これからも新しい「出会い」、「経験」、「仲間」、「趣味」を広げたいと思っています。それから私が作詞を担

当させていただいた八女オルレコースのキャンペーンソングを広めたいとも考えています。他には、幼稚園教諭の資格を活かして「絵本の読み聞かせ」もやりたいです。ハ女の祭りやオルレで見かけたら気軽に声をかけてください。新しい出会いを楽しみにしています！！



国立女性教育会館の

「男女共同参画推進フォーラム」に参加して

栗原チカヨ



平成30年8月30日から9月1日まで、埼玉にある国立女性教育会館でフォーラムが行われました。初日は、「新しい暮らしのカタチ」働き方×幸福度」、「という内容のシンポジウムがありました。パネリストの阿部裕志さんは愛媛県生まれ。トヨタに就職するも辞めて、島根県の離島（海士町）に移住。そこで地元の人々と交流し、資源を活かした町づくりに挑戦され、移住してきた仲間と「巡の環」を起業。「暮らし、仕事、稼ぎ」という3つを満たす生き方を実践し、島で進めている動きが新たな人を引き寄せ、移住者が人口の1割を占めるようになった活動が紹介されました。二人とも、大学在学中に若い人が自分のパネリストの正能茉優さんは、大学在学中に若い人がもっと地元に足を運んで欲しいくて、地方のおいしいものをかわいくパッケージして発信してはどうかと「ハピキラF ACTOR Y」を起業。その後ソニーに就職し、「起業×

会社員」という働き方をされています。「仕事、趣味、友人、家族、恋愛のすべてをバランスよくこなしたい」と考え、今の仕事を続けながら、やりたいことにも挑戦されていることを紹介されました。

2日目、国谷裕子さんによる特別講演「すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会を創る」が行われました。国連が採択した2030年までに達成を目指す持続可能な開発目標（SDGs）は誰一人置き去りにしないことを基本方針に世界の新しい目標として、私たち全員で解決していく重要性を伝えられました。特に日本のジェンダーギャップ指数※は、94位（2010年）から114位（2017年）と下がるばかりで、依然として男女間の格差、女性の人権上の差別が存在します。決定過程の中に3割の女性がいれば中身が変わってくる、女性自ら声を上げないと進まないと熱く語られました。

参加者のいろんな意見が飛び交うワークショップやパネル展示、映画上映など、充実した内容の3日間で、とても心に残る体験をさせていただ



持続可能な開発目標(SDGs)を知っていますか?



持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) “2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求しよう。” 2015年の月に国連総会で「持続可能な開発のための2030アジェンダ（行動計画）」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、持続可能な開発目標（SDGs）です。途上国だけでなく先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施されています。経済成長、社会的包摂、環境保護など相互に関連する要素に配慮しながら、2030年までに達成すべき地球規模の課題を掲げたもの（上図）で、それぞれ具体的な行動目標や削減目標が設定されています。あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにすることなるべく、すべての人にとってさらに平和で豊かな暮らしを継続していくための取り組みを進めていくことになります。

国連で採択された目標というと、自分とは直接関係ないようにも感じるかもしませんが、このSDGsはすべての国とすべての人による行動が求められています。SDGsの17の目標をみると、いずれも日々の暮らしや仕事とつながっています。しかも全員が行動を起こせば大き

な変化につながることがあるかもしれません。私たちには何ができるのかを、一度考えてみぬことが大切です。

男女共同参画の観点からSDGsを見る

SDGsの「目標の」、「ジエンドラー（男女の社会性差）平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメント（本来持っている力を引き出し、社会的、政治的、経済的な能力を備え、発揮していくこと）を図ること」が掲げられています。これは女性がSDGsのすべての分野で重要な役割を担つており、特に貧困や飢餓の撲滅、健康の促進、不平等、女性に対する暴力の解決には、前提としてジェンダー平等と女性のエンパワーメントを充たすことが不可欠です。ジェンダー平等は基本的人権であり、平和で豊かで持続可能な世界に必要な基盤でもあります。そして、女性と女児に教育や保健医療、ティーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）への平等な機会を提供し、政治的・経済的な政策決定過程への平等な参加を確保すれば、持続可能な経済が促進され、社会と人類全体の利益となることがいわれています。



島原自然塾及び雲仙岳災害記念館視察研修

たちばな男女まちづくり委員会 中村 芳子

島原自然塾は、「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」に長崎県下で初の認定を受け表彰された企業です。

「女性の感性やアイデアを生かすこと」を会社理念に掲げる取締役の酒井美代子さんから会社経営や家族、地域の関わりについて、また女性の経営参画や社会参画について学びました。

現在自然塾の職員、会員は59名。

取引先は、九州、関西、関東の生協や量販店。取扱品目は、人参、

生姜、白ねぎ、大根、白菜など。小さな大根、小さな白菜と表示したものも販売していました。

パック詰め作業を見学しましたが、コンテナに入った作物をリフトで作業台上に上げる等の女性のアイデアを活かし、作業負担の軽減に取り組んであります。今迄いろんな施設見学をしましたが、泥が付いたままの大根や人参をパック詰めされたのには驚きました。

食物を作ることは人々の健康を担うことです。その観点に立ち、生産から出荷までの「一元化」に取り組んでいます。「誰もが安心しておいしく食べられる野菜を作ることが私達の使命です。」とほつきり明言されました。

『より自然に』の心が伝わり、自然塾が人々から親しまれ、喜ばれている理由がわかりました。

農業の原点を教えていただき、一考する機会を得ることができました。

その後、雲仙岳災害記念館「がまだすドーム」を見学しました。自然の脅威と災害の教訓を風化

させることなく後世に残すための施設で、土石流が海を埋めてできた新しい陸地に建設されています。

その中の平成大噴火のシアターでは、約4年半続いた噴火活動の再現や火碎流、土石流災害をリアルに表現していました。島原大変劇場では1792年の眉山崩落災害が紙芝居風に作られていて、「島原大変肥後迷惑」の言葉が残されており、当時の人々が地割れや地表から浸み出る水に異変を感じて逃げる様子が描かれています。

今回は、自然の恵みを活かし、創意工夫され、女性の視点で事業展開をされている島原自然塾と大規模災害を次世代へ語り継ぐ雲仙岳災害記念館を視察研修しました。



オランダハウス訪問

—肥前さが幕末維新博覧会—

男女が輝くネットワークやめ

下川京子

ダ社会ができたのです。
今回の訪問でオランダの進めている労働力減少や少子化の解決に大いに参考になると感じました。

日本との共通点が数多くあると
いうオランダは、人口も面積も九州と同じくらいだが、「生産性と幸福度を両立する豊かな仕組みづくり」のために様々な施策が実施されていて、2018年6月現在の閣僚16人中6人が女性（37.5%）。一方日本は、「働き方改革」「すべての女性が輝く社会づくり」を掲げているにもかかわらず、10月に発足した安部改造内閣では、19人の閣僚中女性は1人（5.2%）にとどまっている。

今年の先進地視察を10月13日（土）に行いました。訪問先は、肥前さが幕末維新博覧会（平成31年1月14日までで終了）のパビリオンのひとつオランダハウス。「デザインを通じて佐賀とオランダを語る」をテーマとして、オランダからクリエーターの方を招聘し、企画展を催されていました。

訪問時は、ヴィクトー・エンバースさんという男性アーティエストの「色が僕らをひとつにする」という刺繍プロジェクトが進行中でした。ヴィクトーさんはお話を伺つたところ、日本人の第一印象は「働きすぎ」。オランダは、ワークライフバランス先進国なので、当然のことだと思います。日本人の長時間労働は、世界でも有名です。労働時間は短くとも、オランダの労働生産性は、日本の1.5倍も多いのです。また、女性の生き方として、自分のお母さんのことも紹介されました。刺繡作家として活躍されたお母さんは、高齢

の今でも、自立して生活しておられるとのこと。日本の女性も「自分の意見を持ち、我慢しないで」「革命を起こさなければならぬ」と女性の意見を政治に反映することの重要性を指摘されました。

オランダは、「世界でもっとも労働時間が短い国」であり、ユニセフの子どもの幸福度調査において、「世界一子どもが幸せな国」にランキングされていました。子育て中の共働き夫婦は、「週4勤務」「週3勤務」というパートタイマー（週35時間以下の勤務）となり、子どもと過ごす時間を作る人が多いといいます。オランダでは、パートタイマーであっても、正社員。待遇は、フルタイムワーカーと違ひはありません。90年代に不景気で経済が低迷したとき、政府は世代での働き手を増やす「ダブルインカム」を奨励する」とことで、働きやすさと家庭の両立を目指し、女性の社会進出を後押ししました。30年かけて今のオラン



少子化に歯止めがきかない日本では、子どもはみんなで見守り育てるという地域づくりが求められている。八女市では、ボランティアによる子ども食堂や学習支援等が行われている。

編集後記

